



平成 20 年 4 月 11 日

各 位

会社名 インフォテリア株式会社
 代表者名 代表取締役社長 平野 洋一郎
 (コード番号：3853 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役管理部長 齊藤 裕久
 (TEL 03-5718-1250)

平成20年3月期 通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

平成19年9月21日付当社「平成20年3月期中間（連結・個別）業績予想および通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました平成20年3月期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）の通期の連結業績予想および個別業績予想につきまして、下記のとおり修正をいたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：百万円）

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
前回予想(A)	通 期	1,050	62	37	△82	△1,502.54
今回修正予想(B)	通 期	905	△65	△87	△329	△5,969.17
増減額(B-A)	通 期	△144	△127	△124	△246	△4,466.63
増減率(%)	通 期	△13.8	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成19年3月期)	通 期	1,009	206	207	314	6,317.74

2. 個別業績予想の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：百万円）

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
前回予想(A)	通 期	1,050	55	30	△90	△1,622.51
今回修正予想(B)	通 期	901	△73	△95	△336	△6,098.88
増減額(B-A)	通 期	△148	△128	△125	△247	△4,476.37
増減率(%)	通 期	△14.1	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成19年3月期)	通 期	1,009	199	200	301	6,051.07

3. 業績予想修正の理由

《連結》

売上高につきましては、主に以下の2つの要因により、通期売上高予想を1,050百万円から144百万円を減額し905百万円に修正いたします。

(1) 2007年1月より主力製品「ASTERIA」の製品系列の充実を目指して、それまでの主力製品「ASTERIA 3」の後継製品である「ASTERIA WARP」に加えて、新たに上位版「ASTERIA ARMS」と下位版「ASTERIA WARP Lite」を追加しました。このうち、「ASTERIA WARP」の売上は堅調に推移したものの、新製品としての認知期間を経て下半期からの売上貢献を予想していた「ASTERIA ARMS」と「ASTERIA WARP Lite」の売上高が予想を下回りました。

(2) 2007年1月より「ASTERIA マスターパートナー」制度を開始したところ、顕著な効果が出たパートナーもありましたが、パートナーによっては下半期の売上高が計画を下回る結果となりました。これは、主として、当社がパートナーにおける状況変化や要望に即した計画的な施策の展開ができなかったことに起因すると考えております。

営業利益につきましては、当社の費用項目は変動費の割合が小さいため、予想売上高の増減がほぼそのまま予想営業利益の増減となります。今回、売上高144百万円の減額修正に対して前回予想比21百万円の費用抑制により、前回予想営業利益から127百万円減額し、△65百万円に修正いたします。

経常利益につきましては、予想営業利益の127百万円の減額と、営業外損益3百万円(前回予想時25百万円、今回予想22百万円)の抑制により、前回予想経常利益から124百万円減額し、△87百万円に修正いたします。

当期純利益につきましては、上記利益の修正に伴い、繰延税金資産の回収可能性について再度検討を行った結果、現時点における財務の健全性を考慮し繰延税金資産236百万円を取り崩し、△329百万円に修正いたします。

《個別》

個別業績予想の修正の理由は、連結業績予想の修正理由と同様の内容であります。

4. 今後の見通し

(1) 新製品出荷開始後1年間の営業活動の結果、上位版の「ASTERIA ARMS」については、同製品の対象となるような案件では、未だに個別独自開発によるシステム構築が多く、パッケージ採用に時間がかかると判断しており、中長期での売上貢献を見込んでおります。下位版の「ASTERIA WARP Lite」については、既にERPベンダーなどとのOEM協業案件もスタートしており、また、接続対象パッケージ製品となる「@warp」(アット・ワープ)製品アライアンスは50製品近くと増加していることから、2008年度より売上貢献が期待できると考えております。

(2)「ASTERIA マスターパートナー」制度については、個々のパートナーの状況や要望に即した施策、支援をさらに充実させることで、パートナーにおける売上高の向上を図ります。さらに、現在 17 社の「ASTERIA マスターパートナー」に有力なパートナー企業を加えることで、2008 年度の売上増を図ってまいります。

*上記の業績予想につきましては、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上